

今後の会議の進め方（座長・副座長提案）

【～前回のご意見を踏まえて～】

1. 検討事項について

- (1) 英語 4 技能評価のあり方
- (2) 記述式出題のあり方
- (3) 経済的な状況や居住地域、障害の有無等にかかわらず、
安心して試験を受けられる配慮
- (4) 「その他大学入試の望ましいあり方」

「大学入試のあり方に関する検討会議の開催について」（令和元年 12 月 27 日 文部科学大臣決定）に掲げられた四項目

(1) ～ (3) 等に関する検討項目の詳細は参考資料 1 「これまでの主な意見の概要」参照

① ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入試のあり方

(例：共通テストと個別試験の関係、一般選抜と総合型選抜・学校推薦型選抜の関係、入試におけるデジタル化、感染症等への耐性向上、大学・高校・国の調整・協議のルール化等)

② 大学入学共通テストのあり方

(例：個別試験との役割分担、試験の目的を踏まえ、科目等の精選、セーフティネットとしての役割 等 記述式や英語 4 技能評価のあり方についてはその方向性も踏まえて判断する。)

2. 当面の検討の進め方

(1) 新型コロナウイルス感染防止の観点、遠方からの参加委員も多いこと等を踏まえ、会議を安定的・効率的に実施する観点から、感染拡大の状況を注視しつつ当面はWEB会議にて議論を継続する（月2回程度を想定）。

(2) 当面、概ね以下のような要領で会議を開催する。

- ① WEBによる意見募集の結果を踏まえた議論を行う。 <本日>
- ② 選抜区分毎の実態調査（※大学からの意見募集を含む）を踏まえた議論を行う。
- ③ ①②の後、関係団体等からの再度の意見発表を踏まえた議論を行う。
※ 追加のヒアリングについては①②を踏まえてその要否を判断する。
- ④ 適当な時期に、科目の精選や大学入試のデジタル化等についての大学入試センターにおける検討状況、大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議の審議状況等の報告を受けて議論を行う機会を設ける。
- ⑤ ①～④を踏まえ、必要に応じ、テーマを絞った集中的な議論を行う回を設ける。
- ⑥ 年明け以降、第1回大学入学共通テストなど令和3年度大学入試の実施状況も踏まえつつ更に議論を行う。

※ 新学習指導要領に対応した令和6年度実施の大学入試に係る予定の通知を令和3年夏に行う必要。

(3) 取りまとめに当たっては、以下の点に留意する。

- ① 具体的な案に基づき十分な議論の時間を確保する。
- ② これまで指摘された課題や、延期や見送りをせざるを得なかった経緯の検証から得られる教訓、大学入試が踏まえるべき原則（公平性・公正性の確保等）を盛り込む。
- ③ 令和6年度実施を目指すもの、更にその先を目指して議論すべき課題などを整理する。